

第 2 回 「インターネットは頼れるパートナー」

1 グループワーク「インターネットについての“考え”“感じ”“経験”」

インターネットは通信手段としても、情報収集手段としても、情報発信手段としても役に立つシステムである。インターネットのしくみを正しく理解して活用すれば、大学生活の質を高め、楽しく過ごすことができる。しかし、使い方を誤ると厄介なことになる場合もある。大学生となった今の時点で、インターネットというシステムについてどのように考え、どのように感じているのか、また、(もしあれば)どのような経験をしたのか、を整理してみよう。そして、ここで整理したものごとが、全 15 回のコースを終えるとき、進級するとき、どのように変わって行くかを見て行こうではないか。

2 インターネットで利用できるいろいろなコミュニケーションサービス

2.1 E-mail(電子メール)

コンピュータネットワークを使用してメッセージを交換する手段。どんなものなのかは、いまさら説明の必要はないだろう。以下に、知っておくとよい情報を挙げておく。

大学ドメインのメールアドレスを活用せよ:形式が ○○@○○.kitasato-u.ac.jp となっているアドレスは、北里大学の関係者しか手に入れることのできない、北里大学が発行するものである。実習、研究、そして就職活動などで学外の人に連絡する際、北里大学のメールアドレスを使うことによって、**北里大学に所属する者として連絡をとっている姿勢**を明らかにすることができる。また、大学から送信されるメールは、迷惑メールと勘違いされる確率も低い。コンピュータに向かう習慣の無い者は、1年生のうちから携帯電話に転送設定しておき、大学のアドレス宛てに送られてくるメールを逃さない状態にしておくこと。

CC の使い方:あるメッセージを A さんに届けたい場合には、宛先入力欄に A さんのアドレスを入力する。その内容を念のために B さんにも送っておきたい、という場合には、宛先入力欄ではなく **CC 入力欄**に B さんのアドレスを入力する。このとき、あなたが A さんに届けるメッセージは B さんにも同時に届く。そしてそのことが A さんにもわかる。原則としてメールを受け取った A さんは、あなたに対して返信するのが基本だが、**CC** としてメールを受け取った B さんは基本的にあなたに返信しないものである。

BCC の使い方:CC と BCC は似ているが使い方が違う。あなたが A さんにメールを送るとき、**BCC 入力欄**に B さんのアドレスを入力しておくと、メールは A さんと B さん

んに届く。しかし、A くんには、あなたが送ったメールが B くんにも届けられていることはわからない。ここを間違えると人間関係が崩壊することがあるので要注意。BCC で送られて来た内容を B くんが A くんに伝えたりすると、あなたと A くんとの人間関係は崩壊することだろう。BCC で送られてきた内容は口外してはならない。

互いに面識の無いものどうしを宛名入力欄に並べて一括送信してはいけない：E-mail アドレスも個人情報のひとつである。当人の許可なしに第三者に教えてはいけない。同じ内容のメールを複数の人に送ろうと思って、宛名入力欄にアドレスを並べると、そのメールを受信した全ての者に全員のアドレスが知れ渡ってしまう。どうしても一括送信したい時には、宛名入力欄には自分のアドレスを入力しておき、BCC 欄にアドレスを並べておけばよい。そして本文中に「一斉送信するために BCC 経由でお送りします」とでも書いておけばよい。

複数のトピックをひとつのメールにまとめてはいけない：一通のメールに対しては一通のメールで返答すること。同一人物から別々に送られて来た「会議日程決め：都合のよい日をお知らせください」と「新しく買うテーブルの色は何色がいいでしょうか」に対して一通にまとめて返事してはいけない。**集計作業の妨害**になる。そういうことをやるヒトは信頼されない。

タイトルをつけること：メールを読んでもらいたければ、何についてのメールなのかわかるようにしておくこと。たとえばあなたが学習塾を運営していて、中学生向けの数学講師を募集することにしよう。申し込みのメールがドッサリと届く。まずはメールのタイトル一覧をみて、それから本文を読む。あなたは次のメールのうち、どれから先に読むだろうか？

「(件名なし)」	← あとまわし
「〇〇学習塾様」	← あとまわし
「数学」	← 一応、読む
「古典」	← 絶対に読まない
「中学生向け数学講師への応募(北里大学 1 年・南里芝子)」	← 最初に読む

人間は忙しい。とりあえず**タイトルから中身のわかるメッセージ**から開けて読むことだろう。件名なし、などというメールは開けられることなくゴミ箱行きである。

2.2 ブログ blog

更新して行くことを前提に公開するウェブサイト(厳密には違うんだけど)。一つの記事が一つの日付に対応していることがほとんど。だから日記に使う人が多い。一方、いわゆる「ホームページ」と呼ばれるものは、一つの記事が一つの日付に対応しているわけでは

ない。そのため、どこが新しい記事なのかを見つけにくいことが多い。ブログが雑誌だとするとホームページは書籍。

2.3 ソーシャルネットワークサービス (SNS)

人と人とのつながりをインターネット上で組み立てるしくみ。いろいろなサービスがあるが、今回は以下の3点について紹介する。いずれも無料である。実際に会員になって使ってみればしくみがよくわかる。すでに会員になっている人に教わるのが手っ取り早い。

2.3.1 Twitter <http://twitter.com>

2011年4月現在、日本でもっとも利用者数の多い SNS。アメリカ発。「タイトルなし、本文文字数 140 字まで」のメッセージを投稿できる。それに対して返事を出す、それを転送(リツイート ; RT)する、などの反応ができる。誰の投稿を読みたいかは自分で選べる。匿名でも実名でも OK。特定の利用者からの投稿を受け付けない機能もある。Twitter をまだ利用していない者には**利用を強く推薦する**。北里大学関係でも Twitter による情報を発信している。

北里大学公式 ID	http://twitter.com/@KitasatoUniv	大学情報
有隣堂北里大学売店	http://twitter.com/@KitasatoYurindo	入荷情報とか

2.3.2 mixi <http://mixi.jp>

趣味ごと、地域ごと、大学ごと、学部ごと、などに「コミュニティ」を作って近況報告したり知り合いを探したり情報を交換したりできる SNS。日本国内のみ。匿名でも実名でも OK。情報公開範囲を限定できる(友人まで、とか、友人の友人まで、とか)。

2.3.3 Facebook <http://www.facebook.com>

2011年4月現在、世界最大の SNS。アメリカ発。現実の人間関係をインターネット上でも維持することを前提にしたシステム。匿名利用不可。情報公開範囲を限定できる(友人まで、とか、友人の友人まで、とか)。

2.4 インターネット掲示板

説明省略。書かれている内容がどの程度信頼できるものなのかは、自分で判断すること。情報源としてインターネット掲示板を使うのであれば、そこに記されている内容がどこから引用されてきたものなのかを確認すること。「インターネット掲示板に書かれていたから～」というのはダメ。

2.4.1 2ちゃんねる <http://www.2ch.net>

匿名掲示板。トピックごとに細かく分けられた掲示板が集まったシステム。匿名利用可能。匿名だが、運営側は投稿元に関するある程度の情報を手に入れることができる。また、

大学から書き込んだ場合には大学にバレるものと考えておくこと。つかまるようなことは書かない。バレたら困ることは書かない。

2.4.2 みんなのキャンパス <http://campus.nikki.ne.jp/>

大学/学部/学科ごとに履修科目の内容とか試験対策とかのクチコミを書き込める掲示板。

2.4.3 Yahoo!知恵袋 <http://chiebukuro.yahoo.co.jp/>

さまざまな質問を投稿すると、それに対して誰かが答えてくれるかもしれない、という情報交換の場。答えが必ず正しいという保証はない。また、答えてもらったらお礼を忘れずに。書き込むためには ID をとりログインする必要があるが、過去の質問と回答を読むだけならその必要はない。

3. インターネットのパワーを借りよう

3.1 これまでの悪しき習慣

高校までの小論文とかレポートとかを振り返ってみてほしい。図書館に行ってアレコレと本を引っ張り出してきて、ああでもないこうでもない、という感じに苦しみ、メ切ギリギリになって調べた内容を原稿用紙に書きなぐって提出してセーフ、という経験をもつ者は珍しくないだろう。課題提出までの全労力のうち、情報を探すことに 9 割程度を使っていなかっただろうか？もし、自分が欲しい情報がどこにあるのかが分かっていたら、この労力は大幅に削減できたことだろう。それを実現してくれるしくみが、インターネットである。

たとえば 10 日間でレポートを一つ仕上げるとしよう。情報を集め、集めた情報をまとめ、まとめた情報を元に自分自身の頭で考える、という流れがレポート課題に取り組む意義である。この流れの中でもっとも重要な部分は、あなたにしかできない**自分自身の頭で考える**ところである。だから、ここにもっとも多くの労力を注ぐべきなのである。一日もはやく情報集めを切り上げ、考えることに時間をかけるべきなのである。

しかし、現実には資料をアレコレと探し集めることに 10 日間のうちの 9 日程度を消費してしまい、メ切前日にやっつけ仕事をする、ということが珍しくない。これからはそのようなスタイルを卒業しようではないか。それこそ最初の 1 日で情報集めを終わらせ、メ切までの日々を考えることと、内容を洗練させることに使おうではないか。

3.2 検索エンジンを使う

ここで頼れるしくみが検索エンジンである。代表的なシステムは Google である。

<http://google.co.jp>

まずは自分の知りたい情報をあらかずキーワードを検索窓に入力してみよう。検索エンジンが「有用である」と判断したものから順にリストを提示してくれる。この中から興味をもった情報を読んでみよう。

ここで情報探しは終わりにならない。その情報とは異なる視点で書かれた情報も存在することだろう。それを探してみる。自分の考えに合うものだけを都合よく見つけてきて自分の考え方を正当化することに使ってはいけない。かならず異なる意見にも目をとおし、自分の考えを検証することが重要である。

3.3 コピペはだめ

検索で見つけてきた記事をそのままコピー&ペーストしてレポートにする、というのはダメである。自分の頭を使っていないからである。また、これは著作権を侵害する行為でもある。インターネット上から見つけてきた情報を何らかのかたちで利用するのであれば、どこから得た情報なのかを正しく引用する必要がある。引用の方法については、実験レポートの書き方を扱う回に解説する。

4 グループワーク「サマータイムの導入」

3月の震災により、今年の夏は東日本で電力不足になる可能性が生じている。この対策としてサマータイムを導入しようという意見が出ている。サマータイムとは、夏の間の日の長い期間に、時計を1時間進めて昼の時間を長くする制度である。我が国で今年の夏にサマータイムを導入するか導入しないかを決める権限があなたに与えられたとしたら、あなただったらどうするか。これについてグループごとに結論を出してみよう。まずは情報の無い、今の段階で、すでに知っていることだけを根拠にしてみよう。

実際にサマータイムを導入するかどうかは、様々な角度からの検討が加えられて決められることである。本日の段階では、今年の夏にサマータイムが導入されるかどうかはわからない。今回のグループワークの結果と、数ヶ月後の我が国の選択を比べてみようではないか。¹

5 情報源を確かめに行け!

さまざまな情報をまとめて書かれている記事がインターネット上にはたくさんある。わかりやすく書かれていたり、興味をひくかたちで書かれていたりすると、その内容がすべて信頼できるものだと思ってしまうことも珍しくない。どのような記事であれ、その記事の元になっている情報を確かめに行くこと。アヤシイと思ったら立ち止まってよく考えること。思考停止しないこと。

¹ サマータイムは分かりやすい討論テーマとしてとりあげた。サマータイムを導入すべきかどうかは、この科目とは別問題であり、どちらかの結論を履修者に期待するものではない。

5.1 検証する記事の例その1「東京湾で風力発電」²

東京電力福島第一原子力発電所のトラブルの後、インターネット上にはエネルギー問題に関係する様々な情報が流れた。まともな意見もあれば、誤った理解に基づく間違いもあり、さらにデマも数多く流れた。そうした中で、今年の3月下旬に話題になった記事³がある。今回はその記事を採りあげてみよう⁴。

5.1.1 検証してみるインターネット記事

記事のタイトルは“緊急会議 田中優×小林武史(2)「新しいエネルギーの未来」”というものであり、ライターとミュージシャンの対談形式となっている。この記事においては、現在の電力事情、経済、発電方法、などが紹介されている。その詳細については今回の趣旨とは関係ないのでここでは述べない。

この記事の中で、次のようなやりとりが記されていた。そこを引用しよう。

東京電力が東京大学に委託して、犬吠埼に風車を建てたとしたら、どれだけ発電するかを調べたそうです。そうしたら出てきたデータが「東京電力がまかなっている電気が全部作れます」というものだった。犬吠埼の沖合だけで、だよ。

そうしたら東京電力は「そのデータは公表しないでください」と言った。だけど、こっそりとインターネットに公表されていたのを僕は検索して見つけてさ。

この部分がさまざまなサイトにおいて紹介され続けた。例えば3月24日には、あるニュースサイト⁵において次のように紹介されている。

また、田中氏は東京電力が東京大学に委託して、犬吠埼に風力発電を建てたらどれだけ発電するかという調査の結果、東京電力がまかなっている電力がすべて作ることができるという結論が出たと指摘。だが、東京電力はそのデータの公表を差し止めにしているとも語っている。

² 本科目では発電方法の是非については考えない。タイムリーな話題としてこのトピックを扱うことにしただけである。風力発電を推進すべきかどうかは、この科目とは別問題であり、どちらかの結論に至るよう履修学生を誘導するものではない。

³ http://www.eco-reso.jp/feature/love_checkenergy/20110319_4986.php

⁴ この記事は3月19日にインターネット公開されたが、その後に内容に関して正しくない点があったため、3月下旬に修正されている。現在アクセスすると、修正後の記事にたどり着く。4月21日の講義では修正前の記事を扱った。

⁵ “犬吠埼に風車を作れば東電全体の電力が賄えるとの意見”

<http://news.ameba.jp/20110324-124/> 2011年4月19日確認

5.1.2 公表差し止めもされていなければ、こっそり公開されているわけでもなかった

対談記事では、電力会社が研究結果を公表しないようにと言ったことになっている。これを受けた紹介記事では、電力会社が「差し止めをしている」と、少しニュアンスを変えて紹介している。記事を読んだ読者の中には、電力会社が自分たちに都合の悪い情報を出されないように、研究を行ったグループにデータ公表させないよう圧力をかけている、と受け取るものもいたかもしれない。

しかし、実際には研究成果は誰にでも手に入るかたちでインターネット公開されている。「こっそりとインターネットに公表」されていたわけでもなければ、「僕は検索して見つけてさ。」などと述べるほどのものでもない。研究報告は今もダウンロードできる⁶。

5.1.3 研究結果は正確に伝えられていなかった

研究内容は東京湾の様々な場所、様々なエリアに風力発電装置を設置した際に、どのような条件ならどの程度の発電量が期待できるか、というコンピュータシミュレーション研究であった。インターネット対談記事では「犬吠埼の沖合だけで」十分な電力が得られる、とされていたが、研究報告にはそのような記述はなく、これに該当する記述は、茨城県から静岡県までの沖合 50 km までの領域に風力発電機を設置した場合のシミュレーションであった。

5.1.4 インターネット上では検証も行われた

こうした問題点に関して、いくつかのブログやサイトがコメントを出した。例えば以下のようなものがある。

…ぶっちゃけ、それを引っ張ってきて「房総半島最南端から鹿島灘沖までのエリア」を「犬吠埼沖」と言ってしまうその感覚に問題はないのかな？と思うわけです。野島崎や九十九里浜の沖 50km まで全部風車とか、漁業関係者や海運業者から見たら正気のプランじゃないでしょう。⁷

「(物理的に) 引き出すことができるエネルギーがこれだけある」というのと「これだけ発電できる」というのは全く違うことです。だから仮に作ったとしたら「全部賄える」ということすら、この研究から読み取ることはできません。⁸

⁶ <http://windeng.t.u-tokyo.ac.jp/ishihara/paper/2007-7.pdf>

⁷ <http://j.mp/e3M1Xw>

⁸ <http://tweet.next-nex.info/detail.php?s=88557>

インターネット上では、異なる結論の記事も公開されはじめる。だから、何か興味をひく記事を見つけた際には、その記事に関するコメントやツッコミの記事がないかどうかを探る姿勢が重要である。

5.1.5 記事は修正された

この記事は公開から 2 週間で修正された。「犬吠埼の沖合だけで」と記されていた箇所は、「関東地方沿岸 50km 以内に」と差し替えられた。しかし、差し替えられたことは広く知れ渡っておらず。犬吠埼に風車を立てるだけで十分な量の電力を生み出せるとの誤解を打ち消すには至っていない。いちど広まった情報は回収できない。

5.1.6 このできごとから何を学べるか

社会の出来事に広く関心を持ってもらう際には、その分野の専門家による解説だけでは不十分な場合もあり、ライターやミュージシャンといった、異なる分野の人々が活躍できる場合もある。今回の記事も、エネルギーを生み出すために新しい技術が開発されていること、そうした技術を育てるための基礎研究も行われていることを広く知ってもらうことに貢献したかもしれない。そして、エネルギーに関して考える機会を読者に与えたことも確かである。ただし、この記事の内容はそこまでであった。

5.2 検証する記事の例その 2「日本全国が放射能汚染される」

4 月 19 日に次のような情報が Twitter に出回った。この内容は繰り返しコピーされ、広まっていった。

今週は外出を控た方が良いでしょう。日本全体に放射性物質が飛ぶ予想です。気を付けて外出下さい。http://www.dwd.de/wundk/spezial/Sonderbericht_loop.gif

この記事には画像へのリンクが記されている。そこを見に行くと日本地図が記されており、福島から放出される物質が風に乗って広範囲に広がって行く様子がアニメーションとなっている。説明分はドイツ語および英語なので、日本人がアニメーションだけ見ると、広範囲が汚染されようとしているのだと考える可能性がある。

5.2.1 何が書かれていたのか

しかし、ここに記されている注意書きは次のようなものである。

Important note: The illustration does not allow conclusions on the real concentration of radioactive particles in the air because the strength of the source is unknown. It is only shown how a fictive emission is distributed at the reactor and diluted depending on current weather conditions.

これを和訳すると次のようになる。

重要注意：この図からは空気中の実際の放射性粒子濃度について判断できません。なぜなら、放射線源の強度がわからないからです。ここでは、仮想的な放射が原子炉からどのように広がるのかと、それが現在の天候状態においてどのように薄まって行くのか、だけを示しています。

5.2.2 それはデマだった

「日本全体に放射性物質が飛ぶ予想です。」などとは書かれていない。ようするにデマである。しかもこの情報を最初に流した人物は英語でも情報発信を行っている、有名予備校の英語講師である。プロフィール欄を読んだ者の多くは、有名予備校の英語講師が言っているのだから間違いはない、と考えたことだろう。

5.3 だから情報源を確かめに行け

インターネットでは高速に情報が伝播する。伝播の速度に内容の正確さと信頼性は関係しない。何か情報を得た際には、その情報源を確かめに行くことが重要である。

6. ホームワーク

今回のテーマは「3 高校から大学へ」である。実際に大学生活を2週間体験してみて、高校生活との違いがわかっていることだろう。以下の点について思うところ、感じるところ、気づいたところ、などを**右のページ**に整理してこよう。これに基づいてグループワークを行う。右ページは次回講義終了時に提出する。

2011 年度 教養演習 B 「大学生としての学び方」(担当：野島 高彦)
「高校生活と大学生活との違い」

学籍コード		氏名	
-------	--	----	--

